



スポーツ関連の支出

— 一家計調査（二人以上の世帯）結果より —



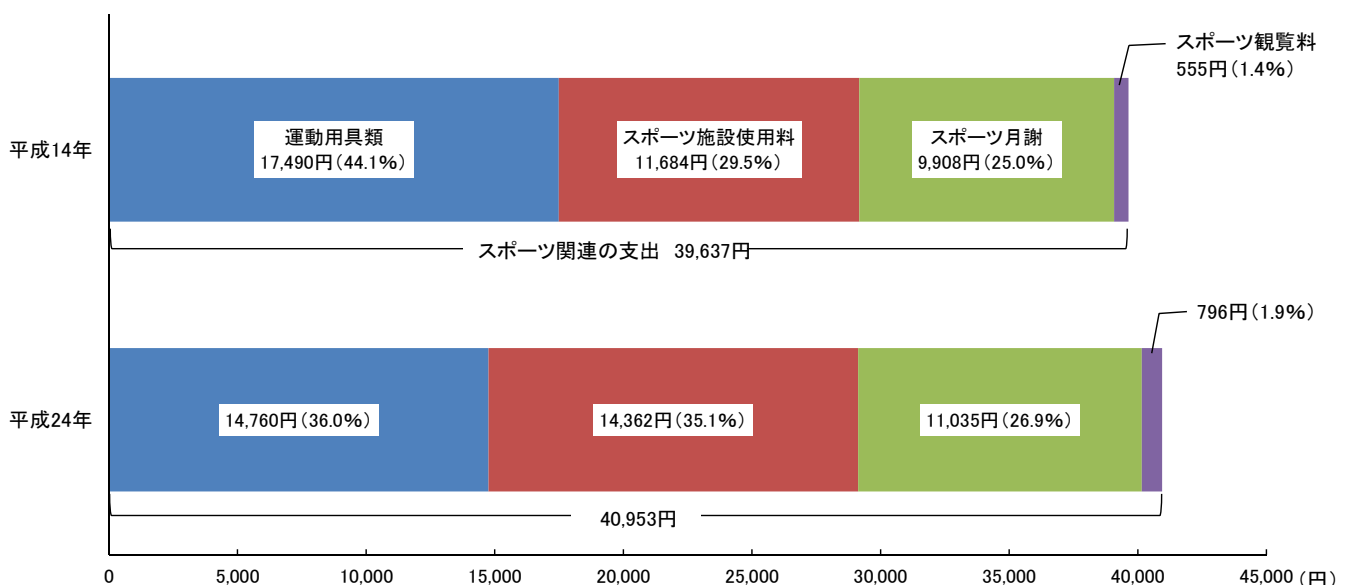
立春が過ぎ暦の上ではもう春ですが、まだまだ寒い日が続いています。2月7日（日本時間では8日午前1時）に開幕したソチオリンピック、そして6月に開幕するサッカーのワールドカップと、今年（平成26年）はともに4年に一度のビッグイベントがあり、スポーツに関心が集まる1年になりそうです。そこで、今月は「スポーツ関連の支出」※¹について、家計調査の結果から見てみましょう。

※1 ここでは、「運動用具類」、ゴルフプレー料金やスポーツクラブ使用料などの「スポーツ施設使用料」、「スポーツ月謝」、「スポーツ観覧料」を「スポーツ関連の支出」としています。

物（財）からサービスへ移り変わるスポーツ関連の支出

最初に1世帯当たりのスポーツ関連の年間支出金額について、平成14年と24年を比較して見ると、消費支出全体が減少している中で、10年間に3.3%増加しています。内訳を見ると、スポーツ施設使用料、スポーツ月謝やスポーツ観覧料は増加していますが、最も支出割合の高い運動用具類が大きく減少しており、物（財）の購入からサービスの購入へと変化してきていることが分かります（図1）。

図1 スポーツ関連の年間支出金額（平成14年、24年）



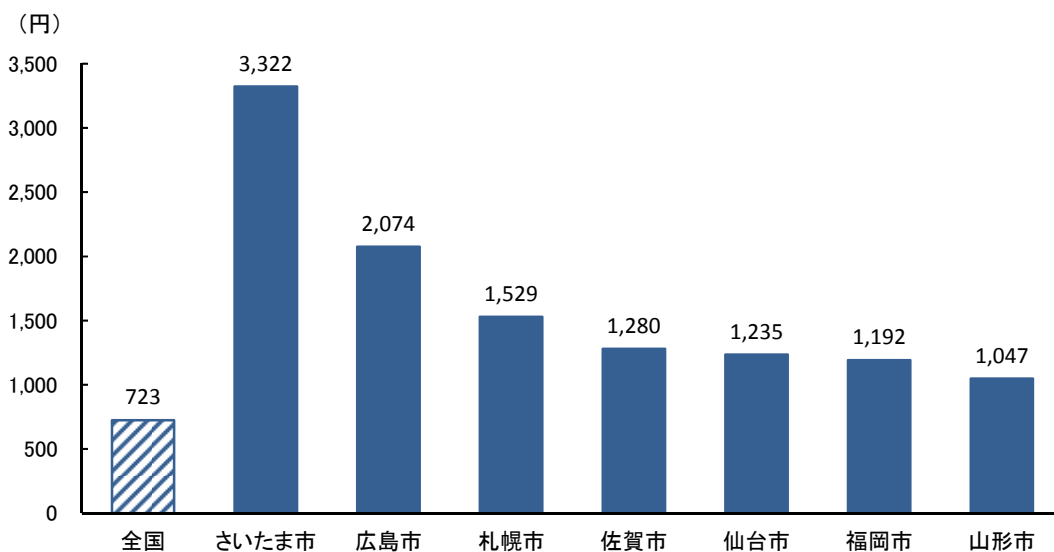
注（ ）内は、スポーツ関連の支出の合計に占める割合を示しています。

プロチームが活躍している都市で支出が多いスポーツ観覧料

次に、1世帯当たりのスポーツ観覧料への年間支出金額（平成22～24年平均）を都道府県庁所在市別に見てみると、さいたま市が3,322円と最も多く、次いで広島市、札幌市となっています。上位の市にはサッカーや野球のプロチームの本拠地があり、さいたま市はサッカーJ1のチームが2つ※2もあります。また、最近、活躍しているチームのある市が上位にきており、例えば、広島市ではサッカーJ1の「サンフレッチェ広島」が、札幌市ではプロ野球の「北海道日本ハムファイターズ」が、それぞれ平成24年にリーグ優勝しています（図2）。

※2 浦和レッドダイヤモンズと大宮アルディージャ

図2 都道府県庁所在市別スポーツ観覧料への年間支出金額（平成22～24年平均）



60歳代の世帯で支出が最も多いスポーツ施設使用料

最後に、1世帯当たりのスポーツ関連の年間支出金額（平成22～24年平均）を世帯主の年齢階級別に見てみると、ゴルフプレー料金などが含まれるスポーツ施設使用料への支出は世帯主の年齢が60歳代の世帯で最も多くなっています。一方、スポーツ月謝や運動用具類への支出は、子育て世帯が多い30歳代および40歳代で多くなっています（図3）。

図3 世帯主の年齢階級別スポーツ関連の年間支出金額（平成22～24年平均）

